

「なぜ」を深める 科学的思考文化の進化 (令和元年度重点努力目標)

西条高校は、平成30年度から5年間、文部科学省が指定するSSH（スーパーサイエンスハイスクール）に選ばれました。「なぜ」を深める科学的思考文化の進化を令和元年度の重点努力目標として教育活動を行っています。

SSH？ スーパーサイエンスハイスクール

SSH(スーパーサイエンスハイスクール)とは、文部科学省の指定を受けた、先進的な理数教育を実施する高等学校のことです。大学その他の研究機関との共同研究や、将来の国際的な科学技術関係の人材育成に取り組んでいきます。本校は、平成30年度に指定を受け、「南海トラフ地震の学びを通じた多次元マルチリーダー人材育成」の研究主題のもと、5年間の研究・実践に取り組んでいます。SSH事業の一環として、学校設定科目を設け、1年生では、「有法子(ユーファーズ)」、2年生では「マルチサイエンスⅠ」の授業を展開しています。

有法子(ユーファーズ)とは？



十河 信二氏

この言葉は、本校第2回の卒業生・第4代国鉄総裁・新幹線生みの親である十河信二氏の座右の銘です。「方法はある。知恵を出して成せばなる(何事にも積極的に意欲を出せ)」という意味です。

「地域を知り、地域の課題を見付ける」

1年生の1・2学期には、「防災」「経済」「国際」「医療」の4つのクロスカリキュラムを設定し、それぞれの領域において、講演→研究課題プロセス設計→課題研究スキル評価を実施します。3学期には「プレ課題研究」を実施し、研究計画の策定方法や効果的なプレゼンテーションの在り方を習得させることを目標としています。

有法子「防災基礎講座1・2」

5月20日(月)23日(木)西条市役所危機管理課長 森本素史氏をお招きして「西条市の防災～死ぬな・逃げろ・助けろ～」をテーマに防災に関する基礎講座を開催しました。

1回目の講座では、南海トラフ地震での西条市における被害想定について詳しく教えていただきました。西条市では、震度6強津波の被害も甚大であり、浸水や液状化現象等が広範囲で発生すると予測されているそうです。実際に、東日本大震災や阪神淡路大震災での揺れを映像で見せていただき、地震の恐ろしさを改めて感じました。

講演の後、西条市の防災について考えるとき、「あなたは、何をテーマにしますか？」の問いについて、グループで話し合い、発表しました。

「けがをしないために」

地震発生後、けがをしないために学校や家庭で今できることについて話合った。

「非常持出し袋について」

どこに置くことが一番良いか、何を入れておく必要があるかについて考えた。

「避難経路、避難場所の確認」

災害はいつ起こるか分からないので、家族で話合っておく必要がある。



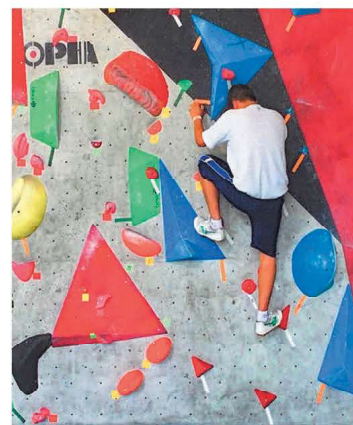
2回目の講座は、「南海トラフ大地震 私たちにできること」と題して、「自助」から「共助」への在り方を学びました。家族会議を開いて集合場所の相談をし、持出し袋の準備を行うことは「自助」に当たります。みんなで助け合って避難することや高齢者への配慮、避難所での生活について考えることは「共助」に当たります。高校生の皆さんには、「自助」から「共助」への意識を高めてもらいたいです。

マルチサイエンスⅠとは？

今年度から、2年生は各分野に分かれて課題研究に取り組んでいます。新居浜工業高等専門学校や大学、地域の事業所等と連携した課題研究を進めています。今回は以下の班の研究をご紹介します。

マルチサイエンスⅠ ボルダリング

「西条Cityをスポーツで盛り上げよう」をテーマに研究を進めています。石鎚クライミングパーク saijoで先日行われたクライミングのジャパンカップを観戦したり、実際にボルダリングを体験したりしました。これらを通してスポーツには、地域を活性化する可能性があると感じました。



マルチサイエンスⅠ

新居浜工業高等専門学校(新居浜高専)と、理系分野の人材交流や情報交換のための教育連携協定を結んだことを踏まえ、今年度から「マルチサイエンスⅠ」のC・D講座における課題研究に共同で取り組んでいます。写真は、宇宙に関する取組の様子です。

新居浜高専との教育連携

